

市民活動団体の大学との連携に関するアンケート調査 選択式設問集計結果

相模原市市民・大学交流センター指定管理者
公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム

調査対象:当センターにて選抜した市民活動団体

実施期間:令和 2 年 10 月 21 日(水)~11 月 30 日(月)

調査団体数:100 団体

調査票郵便未達数: 1 団体

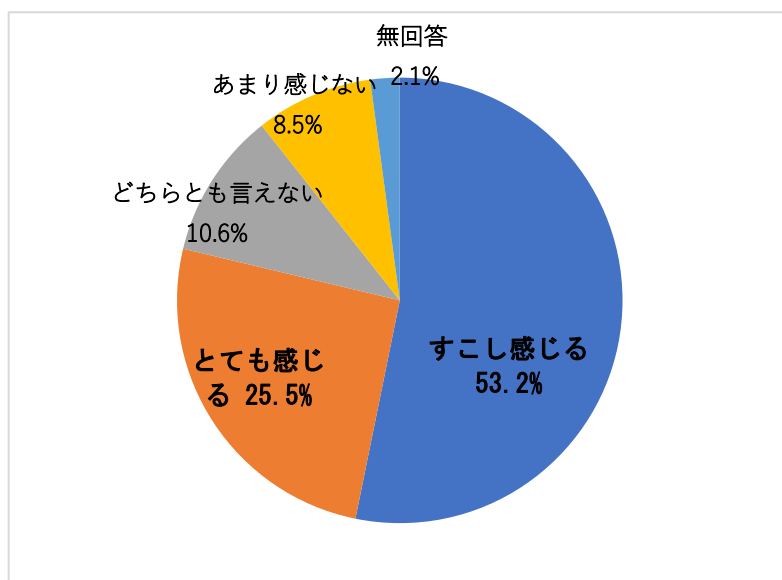
回答数: 47 団体

回答率:47%

貴団体の大学との係わりについてお尋ねします

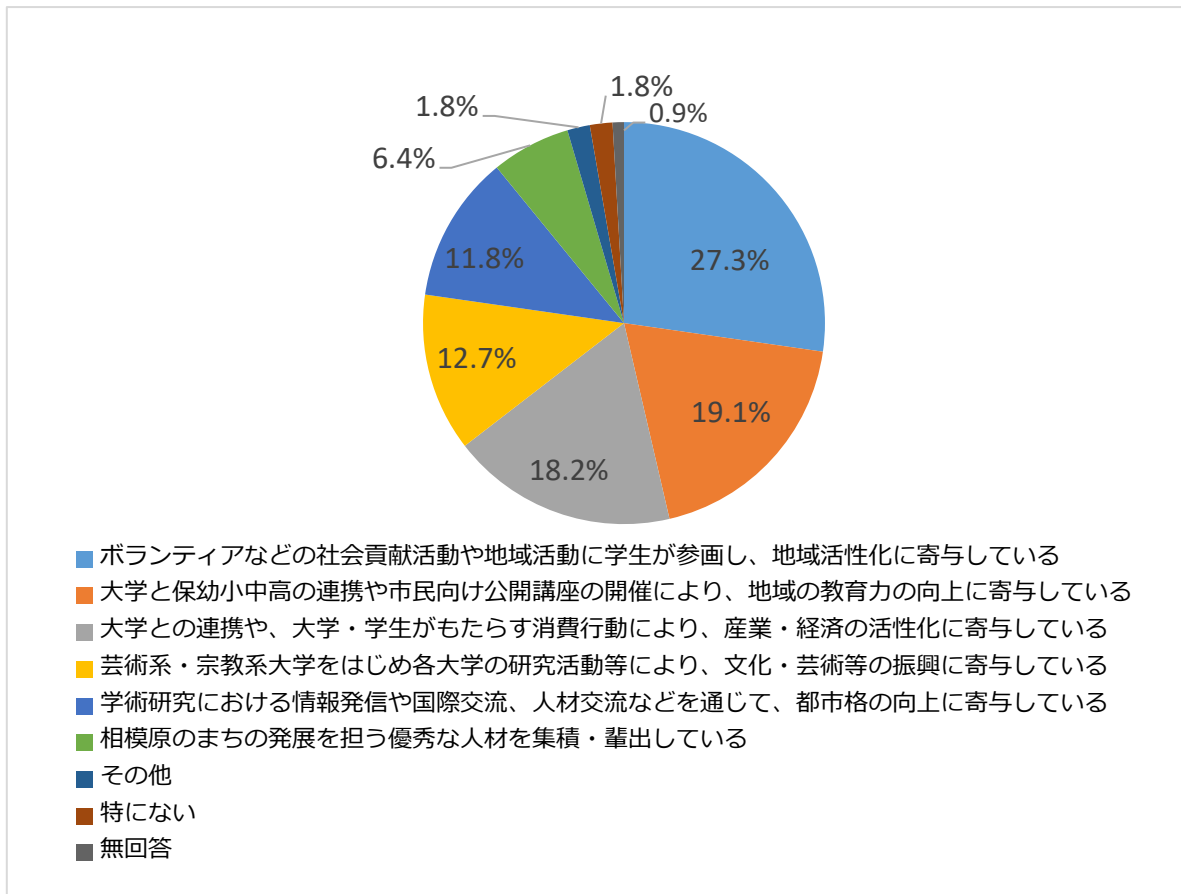
■相模原が「大学のまち」「学生のまち」であると感じられますか。

	回答数	割合
すこし感じる	25	53.2%
とても感じる	12	25.5%
どちらとも言えない	5	10.6%
あまり感じない	4	8.5%
無回答	1	2.1%
計	47	100.0%



「とても感じる」、「すこし感じる」が約8割を占めており多くの団体が相模原市を「大学・学生のまち」として認識している。前回(2017)に実施したアンケートと比較すると「感じる」が10.7ポイント増加している。本アンケートで団体が回答した「大学との連携実績」または「期待する大学との連携」などからも大学との連携への期待を感じることができ、全体として相模原市市民と大学との連携に対する意識の高まりが見られ、市民・大学交流センターの役割を認識し、有効に活用して頂けていると判断する。同時に「どちらとも言えない」「あまり感じない」という意見も約2割いることから、まだ市民と大学連携の認知度や連携自体の促進に注力していく必要がある。

■相模原にさまざまな大学、短期大学があることでどのようなメリットがあると思われますか。

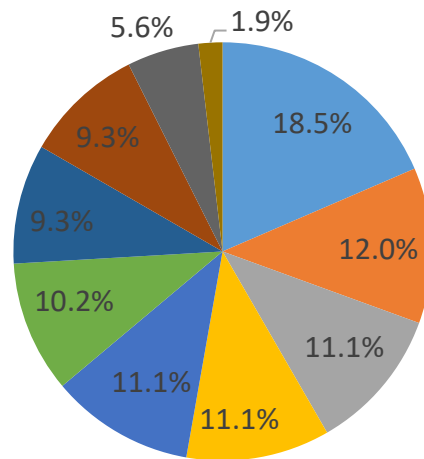


	回答数	割合
1. ボランティアなどの社会貢献活動や地域活動に学生が参画し、地域活性化に寄与している	30	27.3%
2. 大学と保幼小中高の連携や市民向け公開講座の開催により、地域の教育力の向上に寄与している	21	19.1%
3. 大学との連携や、大学・学生がもたらす消費行動により、産業・経済の活性化に寄与している	20	18.2%
4. 芸術系・宗教系大学をはじめ各大学の研究活動等により、文化・芸術等の振興に寄与している	14	12.7%
5. 学術研究における情報発信や国際交流、人材交流などを通じて、都市格の向上に寄与している	13	11.8%
6. 相模原のまちの発展を担う優秀な人材を集積・輩出している	7	6.4%
7. その他	2	1.8%
8. 特にない	2	1.8%
無回答	1	0.9%
	110	100.0%

「学生の地域活動参画による地域活性」が 27.3%と最上位であったが前回は 19%であり、大きく伸びている。学生の地域活動への積極的参加が可視化できるようになったといえる。

また、続いて「教育力の向上」、「産業・経済の活性化」、「文化・芸術の振興」と多岐に渡るメリットを認識されている。相模原市が「大学・学生のまち」である上での有効性をうかがえる結果となっている。

■相模原近郊の大学や学生・教職員と、どのような関わりを持たれたことがありますか。

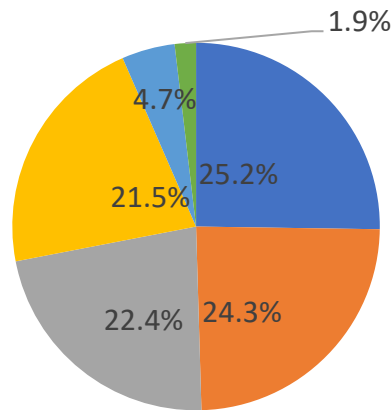


- 市民向けの公開講座を受講したことがある
- 図書館や体育館等の大学施設を利用したことがある
- 学生・教職員が行う調査・研究（アンケート等）に協力したことがある
- 地域の課題（防犯対策やまちおこし）解決のために一緒に活動したことがある
- お祭りや清掃などの地域活動を学生・教職員と一緒にやったことがある
- 大学祭等の催しに参加したことがある
- 仕事での協力やアドバイスを受けたことがある
- その他
- 特にない
- 無回答

	回答数	割合
1. 市民向けの公開講座を受講したことがある	20	18.5%
2. 図書館や体育館等の大学施設を利用したことがある	13	12.0%
3. 学生・教職員が行う調査・研究（アンケート等）に協力したことがある	12	11.1%
4. 地域の課題（防犯対策やまちおこし）解決のために一緒に活動したことがある	12	11.1%
5. お祭りや清掃などの地域活動を学生・教職員と一緒にやったことがある	12	11.1%
6. 大学祭等の催しに参加したことがある	11	10.2%
7. 仕事での協力やアドバイスを受けたことがある	10	9.3%
8. その他	10	9.3%
9. 特にない	6	5.6%
無回答	2	1.9%
計	108	100.0%

「市民向け公開講座の参加」を第一に、多岐に渡り大学との関わりを持っている。相模原市民が「大学・学生のまち」であることを認識し、それを有効に活用していることがうかがえる。

■相模原近郊の大学や学生・教職員が、地域の住民と関わりを深めるための以下の取組が望ましいと思われますか。

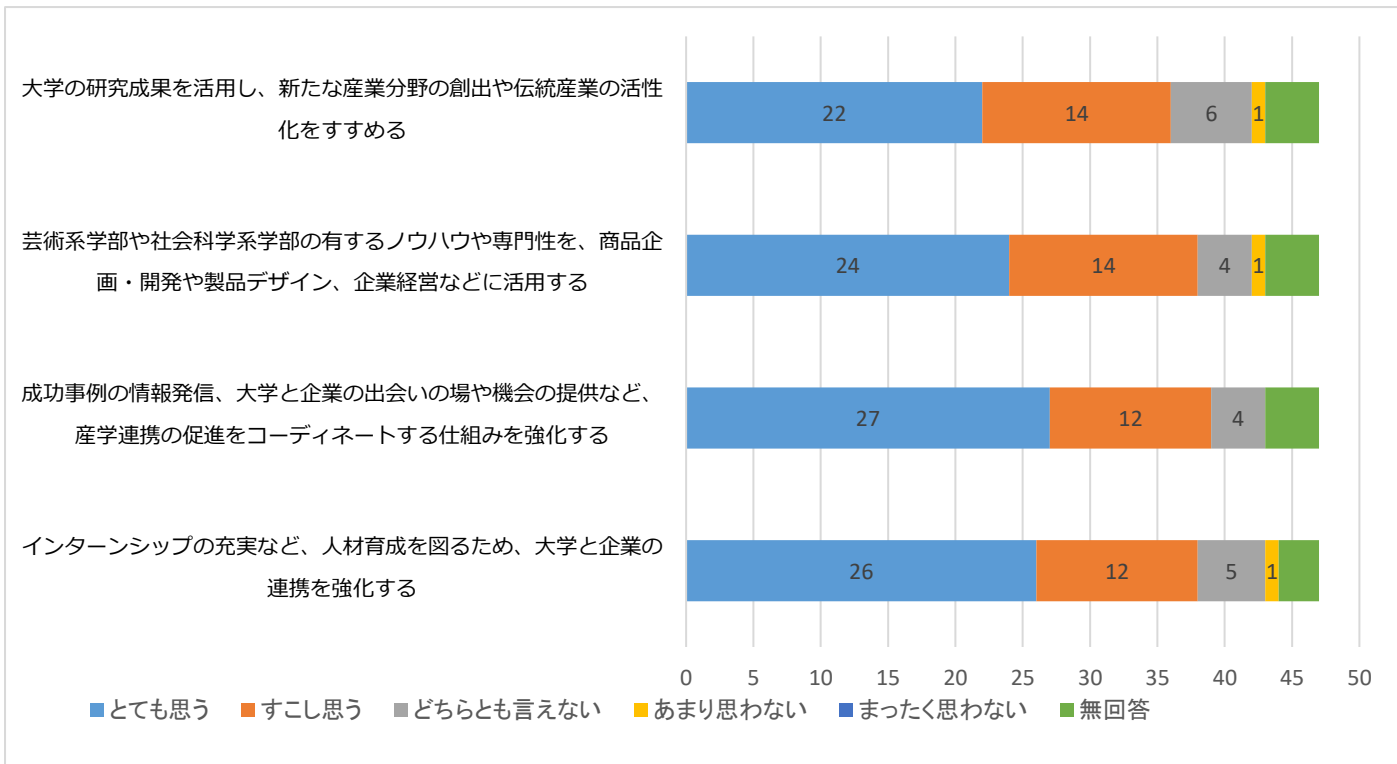


- 1. 公開講座等の市民が参加できる催しを積極的に開催する
- 2. 地域の課題（防犯対策やまちおこし）解決のために、学生・教職員が知恵や力を発揮する
- 3. お祭りや清掃などの地域活動に学生・教職員が積極的に参加する
- 4. 図書館や体育館等の大学施設を地域の住民に開放する
- 5. その他
- 無回答

	回答数	割合
1. 公開講座等の市民が参加できる催しを積極的に開催する	27	25.2%
2. 地域の課題（防犯対策やまちおこし）解決のために、学生・教職員が知恵や力を発揮する	26	24.3%
3. お祭りや清掃などの地域活動に学生・教職員が積極的に参加する	24	22.4%
4. 図書館や体育館等の大学施設を地域の住民に開放する	23	21.5%
5. その他	5	4.7%
無回答	2	1.9%
計	107	100.0%

「市民が参加できる催しの開催」を第一に、いろいろな場面で地域と大学の交流の場を求めている。市民・大学交流センターにおける「地域と大学の交流を促進する施設運営と事業の促進」は団体の活動に大いに役に立つと考える。

■大学と企業・行政が連携して産業を活性化させるため以下の取り組みについて取組が重要だと思われますか。



大学の研究成果を活用し、新たな産業分野の創出や伝統産業の活性化をすすめる

	回答数	割合
とても思う	22	46.8%
すこし思う	14	29.8%
どちらとも言えない	6	12.8%
あまり思わない	1	2.1%
まったく思わない	0	0%
無回答	4	8.5%

芸術系学部や社会科学系学部の有するノウハウや専門性を、商品企画・開発や製品デザイン、企業経営などに活用する

	回答数	割合
とても思う	24	51.1%
すこし思う	14	29.8%
どちらとも言えない	4	8.5%
あまり思わない	1	2.1%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

成功事例の情報発信、大学と企業の出会場の場や機会の提供など、産学連携の促進をコーディネートする仕組みを強化する

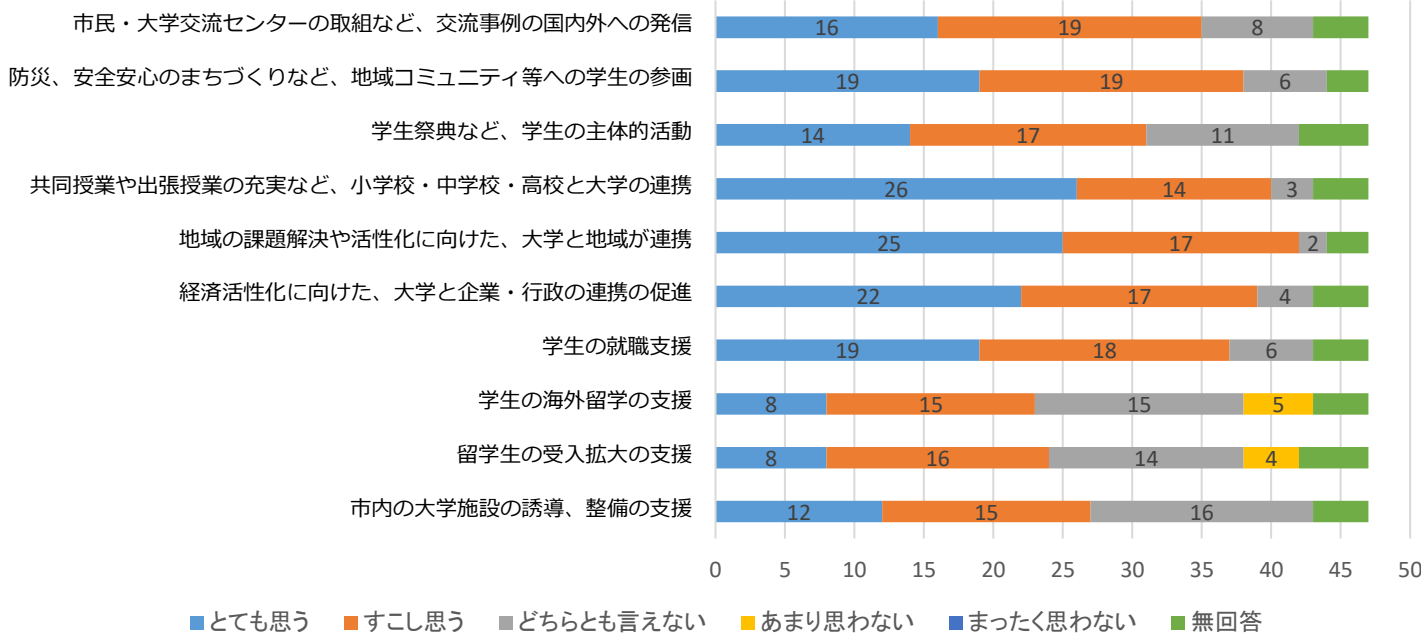
	回答数	割合
とても思う	27	57.4%
すこし思う	12	25.5%
どちらとも言えない	4	8.5%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

インターンシップ(学生による企業等での就業体験)の充実など、人材育成を図るため、大学と企業の連携を強化する

	回答数	割合
とても思う	26	55.3%
すこし思う	12	25.5%
どちらとも言えない	5	10.6%
あまり思わない	1	2.1%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	3	6.4%

全ての項目について「思う」が7割以上を占め、重要度が高いことを示している。大学が有している学術と研究結果、専門的知識などの成果を活用することを重要視している。また、それを事業でいかしていく仕組み作り、人材の交流も重要視している。それらを実現する施設として市民・大学交流センターが求められていると考える。

■大学との交流を推進するために、次の取組を進めるべきだと思いますか。



市民・大学交流センターの取組など、交流事例の国内外への発信

	回答数	割合
すこし思う	19	40.4%
とても思う	16	34.0%
どちらとも言えない	8	17.0%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

学生祭典など、学生の主体的活動

	回答数	割合
すこし思う	17	36.2%
とても思う	14	29.8%
どちらとも言えない	11	23.4%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	5	10.6%

地域の課題解決や活性化に向けた、大学と地域が連携

	回答数	割合
すこし思う	17	36.2%
とても思う	25	53.2%
どちらとも言えない	2	4.3%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	3	6.4%

学生の就職支援

	回答数	割合
すこし思う	18	38.3%
とても思う	19	40.4%
どちらとも言えない	6	12.8%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

留学生の受入拡大の支援

	回答数	割合
すこし思う	16	34.0%
とても思う	8	17.0%
どちらとも言えない	14	29.8%
あまり思わない	4	8.5%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	5	10.6%

防災、安全安心のまちづくりなど、地域コミュニティ等への学生の参画

	回答数	割合
すこし思う	19	40.4%
とても思う	19	40.4%
どちらとも言えない	6	12.8%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	3	6.4%

共同授業や出張授業の充実など、小学校・中学校・高校と大学の連携

	回答数	割合
すこし思う	14	29.8%
とても思う	26	55.3%
どちらとも言えない	3	6.4%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

経済活性化に向けた、大学と企業・行政の連携の促進

	回答数	割合
すこし思う	17	36.2%
とても思う	22	46.8%
どちらとも言えない	4	8.5%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

学生の海外留学の支援

	回答数	割合
すこし思う	15	31.9%
とても思う	8	17.0%
どちらとも言えない	15	31.9%
あまり思わない	5	10.6%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

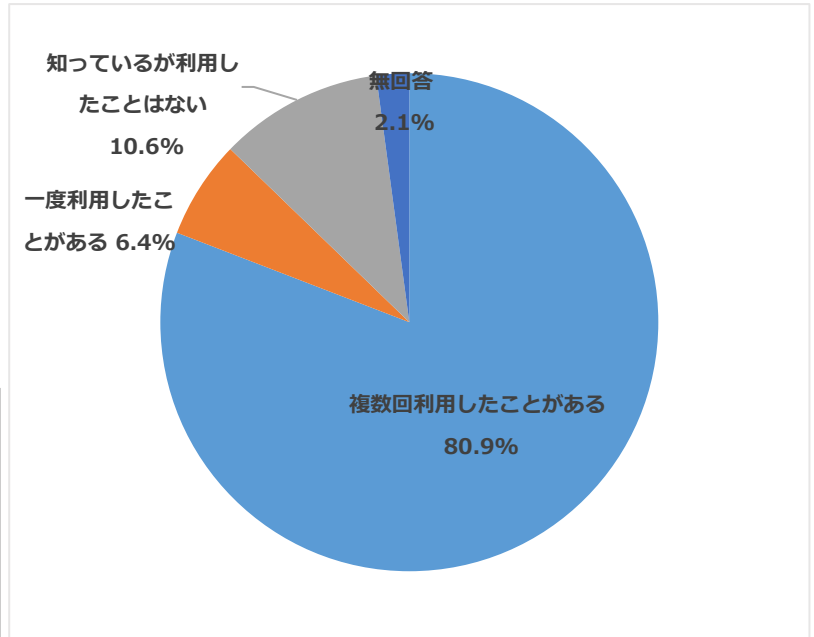
市内の大学施設の誘導、整備の支援

	回答数	割合
すこし思う	15	31.9%
とても思う	12	25.5%
どちらとも言えない	16	34.0%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
無回答	4	8.5%

「小学校・中学校・高校と大学の連携」という子どもに向けての取組を第一に、「地域課題解決に向けた地域と大学の連携」「経済活性化に向けた行政・企業と大学の連携」を重要視している。学生に着目すると「学生の地域コミュニティ参加」、「学生の就職支援」の取り組みを求めている。それらを実現する施設として市民・大学交流センターが求められていると考える。

■市民・大学交流センター(ユニコムプラザさがみはら)は、生涯学習事業や市民活動の会場としてもご利用いただける施設です。この施設を利用したことがありますか。

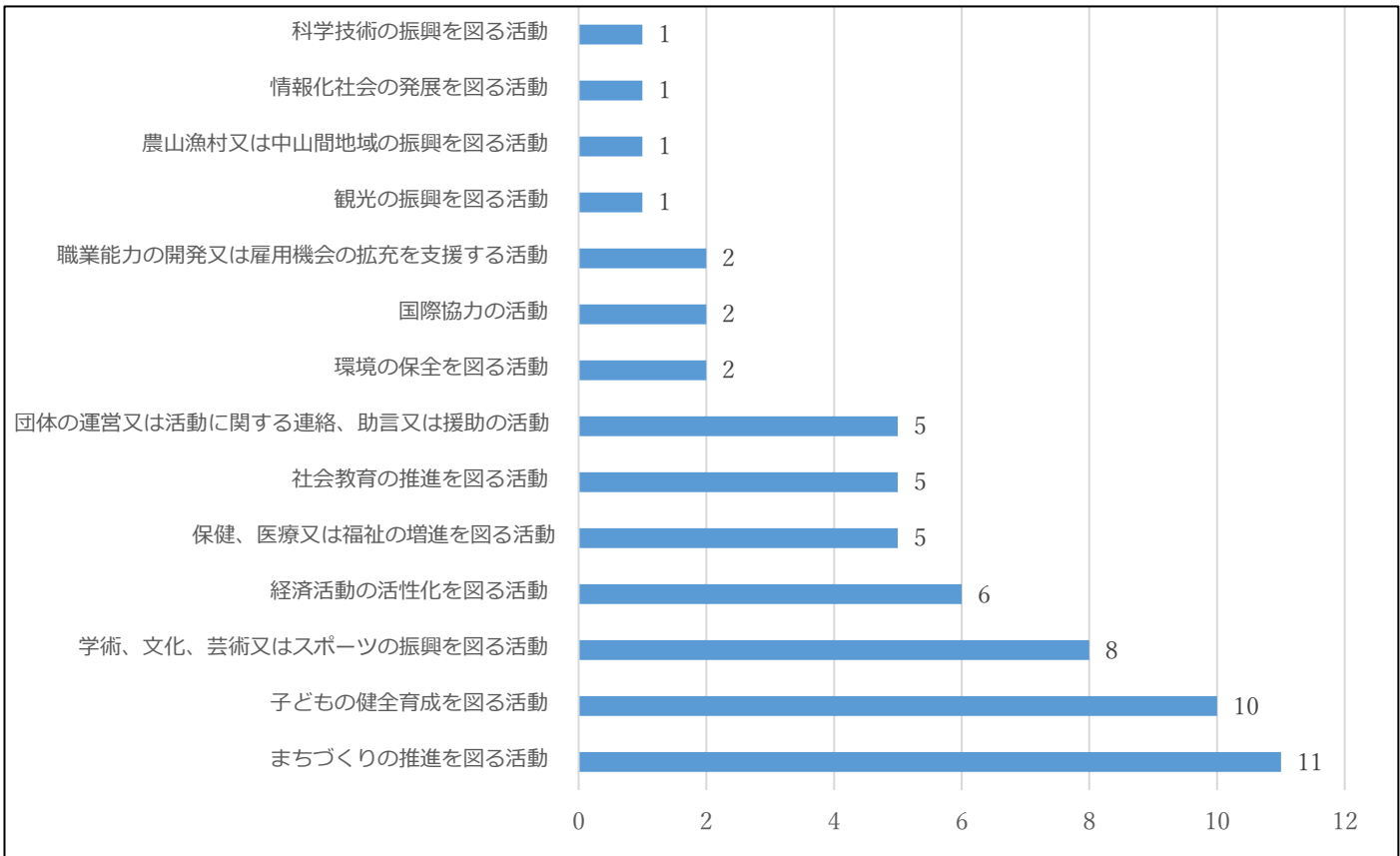
	回答数	割合
複数回利用したことがある	38	80.9%
一度利用したことがある	3	6.4%
知っているが利用したことはない	5	10.6%
知らなかった	0	0.0%
無回答	1	2.1%
計	47	100.0%



約9割に近い団体が利用しており、市民・大学交流センターの認知度が高いことを示している。またその内8割が複数回利用しており、利用満足度もある程度評価されていると判断する。しかし、まだ1割の団体が使用まで至らず、市民・大学交流センターとして更に施設と事業のPRが必要である。

貴団体の大学との連携・交流の取組についてお尋ねします

■大学との連携・交流があれば、代表的な事例を教えてください。

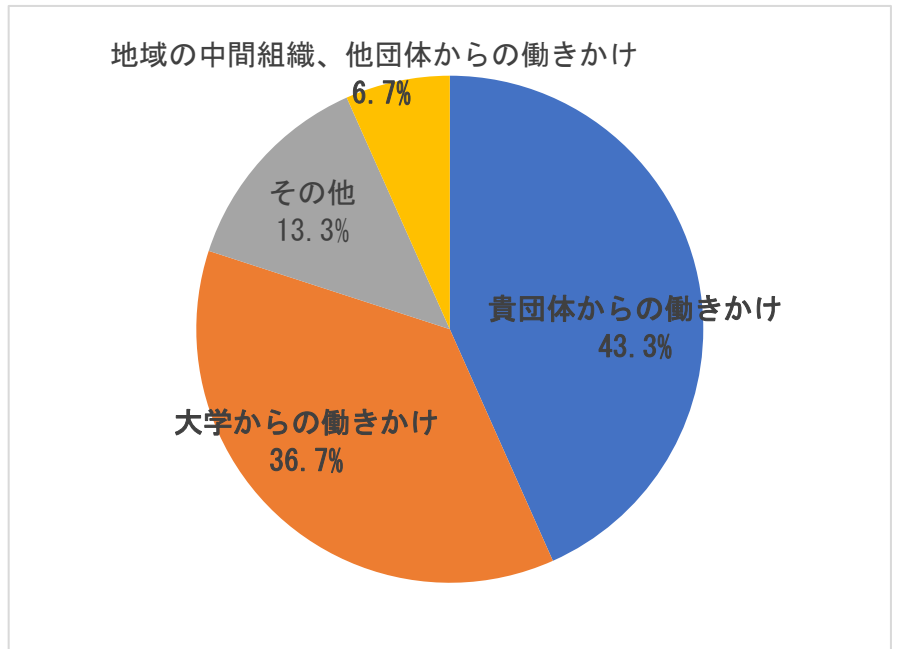


「まちづくりの推進」を11団体で取り組んでおり、次に「子どもの健全育成」、「文化、スポーツの振興」、「経済の活性化」、「福祉の充実」と「社会教育の推進」と重要なテーマに取り組まれている。一方で分野の偏りは前回と同様の結果であり、多様な分野での関わりの開発を求められる。

具体的な事例は、調査結果別紙「市民活動団体の大学との連携に関するアンケート調査票・記述欄まとめ」に記載しています。

■前問で実施された大学との連携・交流事例は、主に何を契機に始まりましたか。

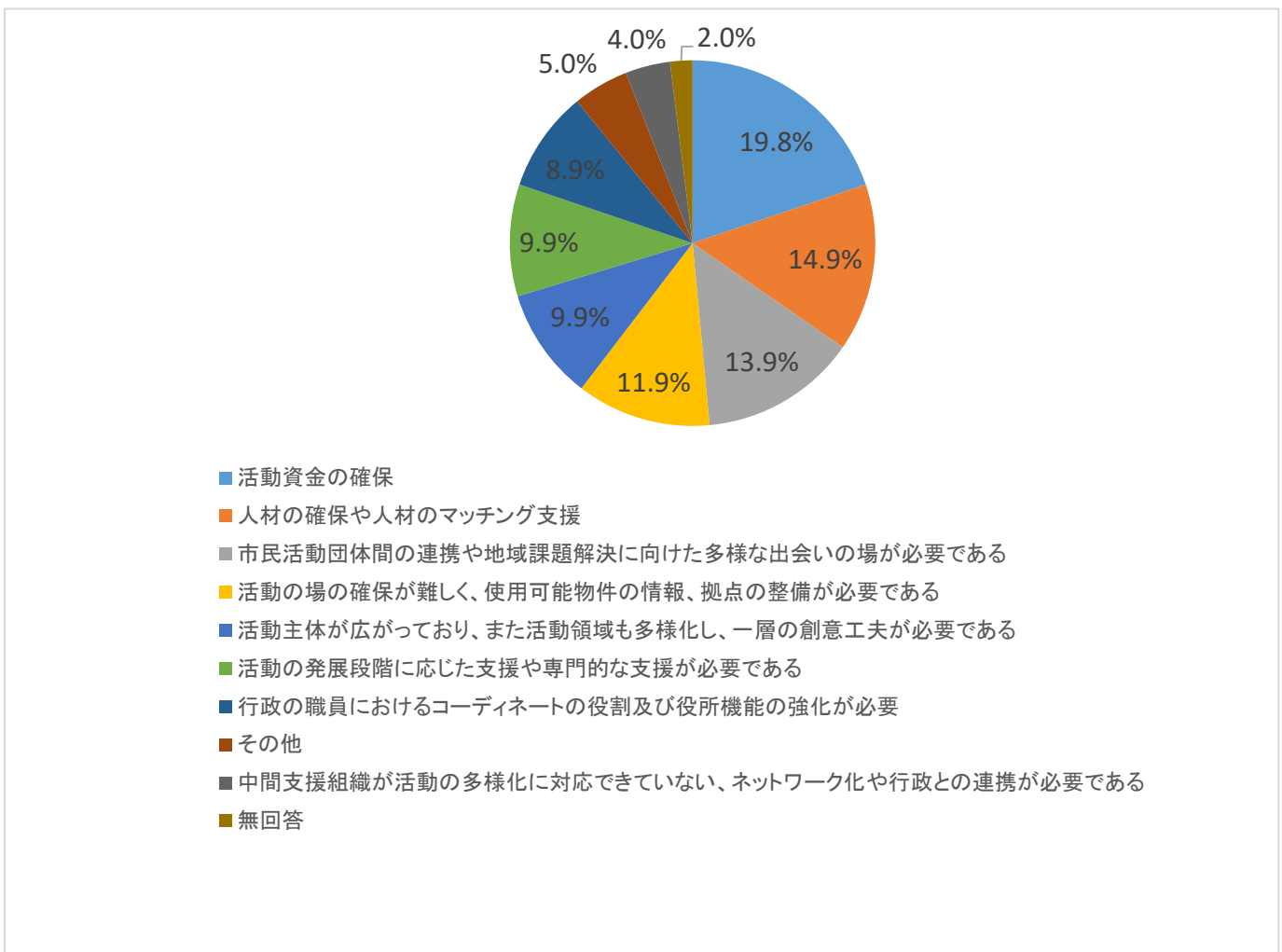
	回答数	割合
1. 主に貴団体からの働きかけによる	13	43.3%
2. 主に大学からの働きかけによる	11	36.7%
3. その他	4	13.3%
4. 主に地域の中間組織、他団体からの働きかけによる	2	6.7%
計	30	100.0%



殆どが団体並びに大学からの働きかけがきっかけとなっている。半面、それ以外の地域組織、他団体からの働きかけが足りないことを示している。地域と大学の連携における市民・大学交流センターの役割が大きく期待されていることを認識できた。

貴団体の活動の課題についてお尋ねします

■活動するうえでの課題についてお答えください(複数選択可)。



	回答数	割合
活動資金を確保する必要がある	20	19.8%
人材の確保や人材のマッチング支援が必要である	15	14.9%
市民活動団体間の連携や地域課題解決に向けた多様な出会いの場が必要である	14	13.9%
活動の場の確保が難しく、使用可能物件の情報、拠点の整備が必要である	12	11.9%
活動主体が広がっており、また活動領域も多様化し、一層の創意工夫が必要である	10	9.9%
活動の発展段階に応じた支援や専門的な支援が必要である	10	9.9%
行政の職員におけるコーディネート役割及び役所機能の強化が必要	9	8.9%
その他	5	5.0%
中間支援組織が活動の多様化に対応できていない、ネットワーク化や行政との連携が必要である	4	4.0%
無回答	2	2.0%
計	101	100.0%

団体は「活動資金の確保」が最も大きな課題である。次に「人材の確保」、「活動の場所・パートナーの確保」が続いている。活動現場においては、活動する上での「専門的な支援不足」、「更なる行政の支援」の声も多い。市民・大学交流センターでは団体の課題解決に向けて、多岐にわたる支援が必要であることが認識できた。

貴団体のPRについてお尋ねします

■市民・大学交流センター(ユニコムプラザさがみはら)には、地域活動、市民活動など、さまざまな地域の情報を発信する展示スペース「地域情報コーナー」があり出展団体を随時募集しています。地域情報コーナーを貴団体で利用することについてあてはまるものに○をしてください。

	回答数	割合
今は必要ない	20	42.6%
検討してみたい	18	38.3%
無回答	3	6.4%
利用中	3	6.4%
利用したいので説明を聞きたい	2	4.3%
興味はない	1	2.1%
計	47	100.0%

団体の活動において「活動を発信する場所の確保」も大きなテーマであると認識しており、5割の団体が地域情報コーナーを使っているまたは、興味があると回答されている。市民・大学交流センターとしては、有効活用の事例なども含めPR活動を強化する。

